

朝鮮独立運動と東アジア 1910-1925

小野 容照 著

▶A5判・420頁／定価7,875円 ISBN978-4-7842-1680-2

2013年4月刊行

朝鮮独立運動はいかなる国際的要因によって展開していたのか、同時代の日本、中国、台湾の社会運動や民族運動との間にはどのような相互作用があったのか——。1919年の三・一運動以前の在日朝鮮人留学生の組織活動、出版活動、独立運動の展開過程を追い、彼らが三・一運動後に社会主義勢力を形成していった過程を、その国際的要因と東アジア各国の運動との関連性に着目して論じる。

朝鮮のみならず、同時代の日本、中国、台湾、ロシアの史料も活用することにより、朝鮮独立運動を東アジア全体の社会・運動・思想状況との相互関係のなかで展開した運動として捉えなおす試み。



◆◆目次◆◆

◇序章

問題の所在／分析方法／研究史／史料について／本書の構成

◇第一章 在日朝鮮人留学生の民族運動の胎動

—「韓国併合」直後

日露戦争後の日本と東アジア／「韓国併合」と在日朝鮮人留学生／在東京朝鮮留學生親睦会の設立と活動

◇第二章 在日朝鮮人留学生の出版活動

—朝鮮人留學生、朝鮮民族運動と日本人実業家

在日朝鮮人留學生と日本人経営印刷所／在日朝鮮人留學生の資金調達／在日朝鮮人留學生と日本人キリスト者

◇第三章 在日朝鮮人留学生の独立運動

—中国人・台湾人留學生と朝鮮人留學生

三・一運動以前の朝鮮独立運動／新亜同盟党／解散後の同盟黨員たち—三・一運動と五四運動のなかで

◇第四章 三・一運動後の朝鮮における社会と思想の変動

新思想の紹介と朝鮮語メディア／朝鮮労働共済会の設立—朝鮮労働問題と国際社会／朝鮮におけるマルクス主義伝播

◇第五章 東アジア共産主義運動と朝鮮

—上海派高麗共産党国内支部の誕生

コミンテルンと東アジア民族運動／東アジア共産主義ネットワークの形成／反帝国主義から共産主義へ

◇第六章 日本における朝鮮人社会主義運動の発生と展開

—北風派共産主義グループの形成過程

1926年の派閥抗争—K. H. 党報告書の作成時の朝鮮社会主義運動／金若水グループの活動と『大衆時報』の刊行／卞熙璋の活動と『前進』の刊行／北星会の結成と活動／北星会の分裂—北風会と一月会

◇終章

朝鮮独立運動と東アジア／これからの研究に向けて

注

付録一 朝鮮内出版物における社会主義関連論説と日本文献

付録二 日本における朝鮮人出版物の解説および総目次

参考文献

あとがき／索引(人名・事項)

おの・やすてる…1982年横浜市生。2005年学習院大学経済学部卒。2008年高麗大学校大学院韓国史学科修士課程修了。2012年京都大学大学院文学研究科博士後期課程修了。日本学術振興会特別研究員をへて、現在、京都大学人文科学研究所助教。

思文閣出版

〒605-0089 京都市東山区元町355 tel. 075-751-1781 fax. 075-752-0723
http://www.shibunkaku.co.jp E-mail: pub@shibunkaku.co.jp

注文票		発行: 思文閣出版		(京都 取引コード 3402)	
冊数	冊	朝鮮独立運動と東アジア		本体7,500円(税別)	ISBN978-4-7842-1680-2
お名前		tel			書店番線印
		e-mail			
ご住所	〒				
送本方法	<input type="checkbox"/> 書店経由 (このちらしを書店にお渡し下さい) <input type="checkbox"/> 代 引 (書籍代+送料を現品と引き替えにお支払い)				

地域社会から見る帝国日本と植民地

松田利彦・陳延湊編

朝鮮・台湾・満州

「支配される側」の視点と「帝国史」という視点——異なるレベルの問題に有機的関係を見いだすため、国内外の朝鮮史・台湾史研究者が多彩な問題関心をもち寄り植民地期の地域社会像を浮かび上がらせる。国際日本文化研究センター共同研究の成果。

▶A5判・852頁／定価14,490円

ISBN978-4-7842-1682-6

韓国「併合」前後の教育政策と日本

本間千景著

佛敎大学研究叢書8

第二次日韓協約から第一次朝鮮教育令発布後の修身教科書への影響や教員の養成・日本人教員の配置など、現地における学校教育をとりあつかう。日本の関与に対して朝鮮民衆の様々な対応と抵抗が展開され、その結果日本側の植民地教育政策がどのような変容を迫られたのかを、多彩な史料に基づき明らかにする。

▶A5判・300頁／定価5,880円

ISBN978-4-7842-1510-2

※オンドルと豊の国 近代日本の〈朝鮮観〉

三谷憲正著

佛敎大学鷹陵文化叢書9

従来「閔妃」と言われてきた肖像写真は、実は別人である可能性がきわめて高い、という刺激的な論考をはじめ、雑誌メディアや小説にあらわれている近代日本の朝鮮観について真摯な学問的良心をもって問い直す。明治以来の逆説に満ちた日朝関係の糸をときほぐす試み。

▶A5判・232頁／定価1,990円

ISBN4-7842-1161-6

青島の都市形成:1897-1945 市場経済の形成と展開

樂玉璽著

青島がドイツ・日本との間に持った経済関係や、その関係が築かれた歴史的要因、青島の経済発展の過程や特徴、さらに青島が全中国へ与えた影響を解明。日中両国の広範な資料を用いることにより、詳細かつ中立的・客観的な立場での考察を試みる。

▶A5判・364頁／定価7,140円

ISBN978-4-7842-1453-2

※日中戦争から世界戦争へ

永井和著

華北に利権を求める日本。イギリス・アメリカ・ソ連を相手にしてどのような対応をしたのか。日本が世界戦争への道を歩んでゆく姿を明らかにする一書。【内容】東アジア二〇世紀史の中の日本/日中戦争と日英対立/日中戦争と帝国議会/日中戦争と陸軍慰安所の創設 など

▶A5判・516頁／定価7,980円

ISBN978-4-7842-1334-4

近代日本の軍部と政治

永井和著

日本近代政治史の気鋭が「戦前の内閣」をとりあげ「人の内閣」というフィルターを通して内閣史に新たな光をあてる。

【内容】軍人と内閣 視点と定義/軍人首相内閣論/現役将校の官界進出 内閣官制と帷幄上奏 初期内閣と帷幄上奏勅令/内閣官制の制定と帷幄上奏 など

▶A5判・450頁／定価9,030円

ISBN4-7842-0770-8

憲政常道と政党政治

小山俊樹著

近代日本二大政党制の構想と挫折

戦前日本において、二大政党制の導入に込められた理念とは何か。二大政党制をめざす政治家やメディアの戦略とは。そして政党政治の崩壊と二大政党制の関係は、どのようなものであったか。これらの視点から、「憲政の常道」と日本の政党政治をとらえなおす。

▶A5判・384頁／定価7,350円

ISBN978-4-7842-1662-8

明治期における不敬事件の研究

小股憲明著

明治政府の誕生以来、数多く発生しながら体系的な研究がされてこなかった不敬事件を、明治期について網羅。豊富な実例を整理・検討することによって明治国家の特質を考察し、天皇制と教育の関係、ひいては天皇制と近代日本および国民の関係を明らかにしようとする大著。資料編として、228事例と13参考事例の概要などを収載。

▶B5判・576頁／定価13,650円

ISBN978-4-7842-1501-0

植民地朝鮮の日常を問う韓哲昊・原田敬一・金信在・太田修著 **佛敎大学国際学術研究叢書3**

佛敎大学と韓国・東国大学校との三年間にわたる学術交流の成果。近代都市・教育・観光・併合をキーワードに、「植民地時代」の「日常」とは何であったのかを検討した四編を収録。【内容】日帝の韓国併呑に対する韓国民の認識と対応/韓国併合前後の都市形成と民衆/日帝強占期における「古都・慶州」の形成と古跡観光 ほか

▶A5判・306頁／定価2,940円

ISBN978-4-7842-1660-4

朝鮮近現代史を歩く 京都からソウルへ

太田修著

佛敎大学鷹陵文化叢書20

朝鮮半島とそれに繋がる人々における植民地支配と戦争の歴史がどの様なものか、現代の人々によってどの様に記憶されているのか、また民衆がどの様に生き何をしたのか。その歴史と縁のある場所を訪れ風景やモノを見、人に会い、史資料を読み、考えた中から生まれた成果。

▶A5判・270頁／定価1,995円

ISBN978-4-7842-1450-1

立憲国家中国への始動 明治憲政と近代中国

曾田三郎著

従来の単線・単純な辛亥革命史研究の枠組みを打開すべく、立憲国家中国の形成という観点から叙述する中国近代史。内閣制を中心とする行政制度の改革や、省制・省政の改革を軸に、大隈重信などの政治指導者や、有賀長雄のような伊藤系の法学者などの影響を具体的に把握することで、明治憲政の影響を動態としてとらえる。

▶A5判・400頁／定価8,400円

ISBN978-4-7842-1464-8

未知への模索 毛沢東時代の中国文学

吉田富夫著

佛敎大学鷹陵文化叢書14

1949年10月の中華人民共和国誕生から文化大革命までの(毛沢東時代)の中国文学についてまとめた一書。毛沢東の中国の模索がひとまず挫折したことはいまや明らかだが、模索そのものの意義は、いつの日にか誰かによってあらためて見直されるはず、との信念のもと、毛沢東時代とは何であったのかを改めて問い直す。

▶A5判・290頁／定価2,415円

ISBN4-7842-1291-4

※日中戦争についての歴史的考察

明石岩雄著

日中戦争の全面化は、太平洋戦争への決定的転換点であった。またその結果は、日本の対中国政策の破綻でもあり、中国市場の全面的開放と開発という、国際資本の試みの挫折といえる。本書は、日中戦争の原因について歴史学から考察する。

▶A5判・352頁／定価5,775円

ISBN978-4-7842-1347-4

歴史とアイデンティティ

山口定・R.ルブレヒト編

日本とドイツにとっての1945年

【内容】占領と官僚制/連続と非連続/日本占領政策と財閥の解体/1945年以後の経済再建/戦後保守体制の確立/政権党から万年野党か/皇国民練成の理念と実践/第三帝国における青少年教育/日本の戦争経済/指導者崇拜と指導者に対するドイツ人の憧れ ほか

▶A5判・500頁／定価9,030円

ISBN4-7842-0795-3

近代日本の倫理思想 主従道徳と国家

高橋文博著

西村茂樹・福沢諭吉・阿部次郎・安倍能成・和辻哲郎ら近代日本の思想家や、修身教科書を取り上げて考察した論文を集成。前近代よりもち越され、主張され続けた主従道徳の存在に着目し、倫理思想における日本の近代と近代以後のもつ意味を考える一書。

▶A5判・332頁／定価5,775円

ISBN978-4-7842-1656-7

※東アジアと『半島空間』

千田稔・宇野隆夫編

山東半島と遼東半島

山東半島と遼東半島は、先史・古代あるいは中世頃までは中国文明の出口であったが、近代には列強諸国による近代文明の侵入口であった。半島は、そこを通過した文明の沈殿層が形成される空間といえる。古代・中世から近代におよぶ通時的・学際的・国際的な議論を通し、東アジア文明論に新視点を与える。

▶A5判・420頁／定価5,040円

ISBN4-7842-1117-9

インタビュー・エッセイや新刊情報を掲載した広報誌『鴨東通信』を年4回無料でお送りしています。

電話・fax・Eメールでお申し込み下さい。※印の書籍は外函・カバーに汚れ・傷みがございます。